

【授業報告】

京都大学 COC 科目「京都の地域リソース実践学」の取り組み

奥村 旅人、白井 皓大、青山 絵美、林 桃子、松尾 和泉

“Local Resource Practice of Kyoto” Center of Community in Kyoto
University

OKUMURA, Takahito&SHIRAI, Kota&AOYAMA, Emi&HAYASHI, Momoko&MATSUO, Idumi

1 関連教育システム論基礎演習 II A 授業報告

京都大学教育学部「関連教育システム論基礎演習 II A」の授業は、生涯教育学の基礎演習であると同時に、全学 COC 科目に位置付けられる「京都の地域リソース実践学」として開講された。本授業では、京都の一地域を足場に、学生たちが自らの足や五感を用いて地域の現状に触れ、自然・歴史・産業・社会・文化など多岐にわたる地域リソース（モノ・人・情報など）を掘り起こし、その活用・共有・継承・発展などの可能性について共同で考え、実践方策をとりまとめ、具体的提言および実践を行うことを目的とした。具体的には、2 回の宿泊研修及び有志による自主研修を通して、京北地域でフィールドワークや実地訪問、地元の方へのインタビューを行い、2 回目の宿泊研修の際に京都府立ゼミナールハウスにて「京大生イベントデー」を実施し、成果を発表した。具体的な授業日程は以下のとおりである。

授業日	授業内容	場所
4 月 8 日 (水)	授業ガイダンス (渡邊洋子) 京北イントロダクション	京都大学
4 月 15 日 (水)	現地ガイダンス (あうる京北理事長 吉田均氏、 広報・企画事業主任 吉岡智史氏) グループディスカッション	京都大学
4 月 22 日 (水)	配布論文を基に、グループディスカッション 第一回宿泊研修オリエンテーション	京都大学
4 月 29 日 (水) ~ 30 日 (木)	第一回宿泊研修 (1 泊 2 日) 1 日目 京北地域見学。地域の人々のお話を聞きし、グループで方針を相談 2 日目 フィールドワーク、グループで話し合い	京北地域
5 月 13 日 (水)	第一回宿泊研修の振り返りと情報共有	京都大学
5 月 14 日 (木) ~ 6 月 2 日 (火)	グループワーク (グループごとに課題研究)	京都大学

6月3日(水)	グループワークの中間発表	京都大学
6月4日(木)～ 30日(火)	グループワーク(グループごとに課題研究) 6月6日(土)～7日(日)、24日(水)、27日(土)～28日(日)に有志による自主研修	京都大学 京北地域
7月1日(水)	第二回宿泊研修オリエンテーション	京都大学
7月3日(金)～ 4日(土)	第二回宿泊研修(1泊2日) 1日目 フィールドワーク、グループ話し合い 発表準備 2日目地域の人々の前で提言発表会・意見交換	京北地域
7月8日(水)	授業の振り返り	京都大学

第一回宿泊研修以降、「イベントA：地域の魅力発見型」「イベントB：子ども・若者交流型」「情報発信班」の3つのチームに分かれ、最終的に地域の人々に向けて「京大生イベントデー」を実施した。

「イベントA：地域の魅力発見型」は、大学生から見た京北の魅力を発信することを目的とし、メンバーのそれぞれの関心に合わせて、「サイクリング」「カフェ」「自然」「歴史」について発表を行った。「イベントB：子ども・若者交流型」は、若者が高校卒業後に京北から出て行ってしまうことに問題意識を感じ、中高生を対象に「みんなでつくろう京北のミライ」(京大生イベントデーと同日)を実施し、中高生に理想の京北について考えてもらうとともに、地域の方々に中高生の意見を届ける機会を設けた。「情報発信班」は、情報発信を通じて、京北の魅力を京北外の人に伝えることを目的に、facebook を媒介に、いいね！数を増やす取り組みを実施した。

なお、当イベントは7月5日の京都新聞朝刊に取り上げられた。

最後に、お世話になった吉田均理事長と、京北の皆様に、心より御礼申し上げます。

2 ワークショップ「まちおこしワッショイ～北高生と京大生でふるさとのこれからをthinking～」報告

後期「相関教育システム基礎演習ⅡB」の授業報告は別稿にて行うので、ここでは前期「相関教育システム基礎演習ⅡA」の継続として、11月11日(水)に京都府立北桑田高校で行ったワークショップ、「まちおこしワッショイ～北高生と京大生でふるさとのこれからをthinking～」について報告する。当ワークショップは「相関教育システム基礎演習ⅡB」の受講者の中で有志の者と、京北地域唯一の高校である北桑田高校の生徒とともに、美山・京北地域のことについて、ワークショップ形式で話し合い、考えることを趣旨とするものである。

ワークショップの企画・準備は北桑田高校生6名で構成される実行委員会と京大生7名(種村・池田・白井・青山・神谷・林・奥村)で構成される準備委員会が協働で行った。両委員会はワークショップに先立って、北桑田高校で2回の合同会議を行った。第一回会議は9

月 28 日(月)、第二回会議は 10 月 22 日(木)である(当ワークショップの名称は第二回会議において実行委員会から提案された)。

第二回会議の後北桑田高校の教諭方の協力を得ながら準備委員会で協議を重ね、グループ分け、タイムテーブル案の作成などを進めたのち、11 月 11 日(水)にワークショップを実施した。来賓として、京都府や京都市の行政担当者など 10 名を超える方々にお越しいただいた。当日のタイムテーブルは以下の通りである。

時間	所要時間	概要
11:55	20 分	概要説明
12:15	25 分	アイスブレイク
12:40	40 分	昼休憩
13:00	20 分	概要説明（来賓の方々）
13:20	10 分	イントロダクション
13:30	18 分	グループワーク 1
13:48	23 分	グループワーク 2
14:11	13 分	発表準備
14:24	5 分	休憩
14:29	29 分	発表
14:58	10 分	振り返り
15:08	12 分	エンディング
15:20	5 分	移動 片付け
15:25	55 分	大人とのディスカッション
16:20		終了

実行委員会に有志の者を加えたファシリテーター 9 名がそれぞれ高校生 4, 5 人とグループを作り、9 つのグループ(A 班から J 班)に分かれてグループワークを行った。グループワークの内容は、理想のふるさと(京北、美山、殿田、園部)を考え、その理想を実現するための具体的な方法について考える、というものであった。

その後各班がポスター発表を行った。各班からは「人が多くて活気がある京北」という理想のためにテーマパーク「京北ネイチャーランド」を建設する(J 班)、「交通機関が充実しており、事故が少なく安全で、活気があふれているふるさと」という理想のために「バスのダイヤを見直す、スピードが出せないような道路にする、過疎化の村を救う募金をする」(B 班)などのアイデアが出された。

なお、当ワークショップは 11 月 12 日の京都新聞朝刊に取り上げられた。

最後に、お世話になった北桑田高校の教諭方、生徒の皆様方に心より御礼申し上げます。